

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度技術情報第2号(イチゴの炭疽病)について(送付)

イチゴの炭疽病について情報をとりまとめましたので送付します。

親株床で炭疽病菌の潜在感染株が確認されています。子苗への感染を防止するため防除対策を徹底してください。

1 農作物名 イチゴ(親株から子苗)

2 病害虫名 炭疽病

3 予報内容

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多

4 情報の根拠

(1) 平成20年4月16日～21日に親株床における潜在感染株を調査した結果、地域によっては多くのほ場で感染が確認され、感染株率の高いほ場もみられた(下表)。

(2) 炭疽病菌は高温多湿条件で多量の胞子を形成し、雨水等で飛散するため親株から子苗への伝染が懸念される。

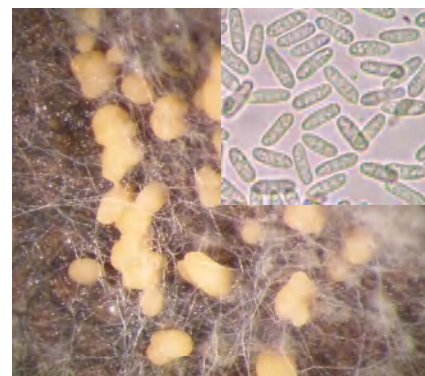
(3) 向こう1か月の天候では、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予報されている。

表 親株床での炭疽病菌感染状況

地域名	感染状況		調査地点
	平成20年4月調査	平成19年4月調査	
日置	0/5※	3/5(10～20%)	日置市伊集院町中川
川薩	2/5(5～10%)	2/5(5～25%)	さつま町湯田・平川
曾於	4/4(5～95%)	0/4※	志布志市有明町野神

注) 感染ほ場数/調査ほ場数, () は感染確認ほ場の感染株率を示す(1ほ場20株調査)。

※地域振興局の調査では、感染を確認している。

親株の小葉上に形成された胞子粘塊
(表面殺菌後、28℃で20日間保湿)

胞子粘塊の拡大部分と分生子(右上)

5 防除上注意すべき事項

(1) 育苗ほ場周辺や育苗ベンチ下の除草を徹底する。

(2) 雨よけ、排水対策および防風対策を徹底する。

(3) 地床育苗では、ビニールマルチ等で降雨等による土のはね返りを防止する。

(4) 生育が不良の親株からは採苗せず、早急に除去する。なお、除去した親株はビニール袋等に入れて密閉し適切に処分する。

(5) 摘葉作業は、降雨時には行わない。

(6) 子苗への感染防止の薬剤散布は10～14日間隔で行い、株元を中心に十分量(300g/10a)を散布する。また、発生が認められる場合は散布間隔を短縮する。